



旭川赤十字病院

創刊号

がん相談支援センター通信

2026年9月発行

がん相談支援センターとは

「がんと診断されたけど心の整理がつかない」
「がんの治療や療養についての情報がほしい」
「医療費のことが心配」「退院後の生活は？」
「職場復帰はどのように？」

など、がんと病気には様々な不安や心配がつきまといます。
そんな患者さんや家族の話じっくり耳を傾け、一人一人に合った
解決方法をとともに探していくのが、「がん相談支援センター」です。

ご相談は、看護師や医療ソーシャルワーカーなどのがん専門
相談員がお受けしています。



リーフレットの紹介

外来、病棟、がんサロン、入院支援コーナー等に
設置しています。ご自由にお持ちください。



相談内容

- ・医療費など、お金に関すること
- ・在宅医療について
- ・治療や副作用について
- ・予防や検診に関すること
- ・療養生活のこと
- ・就労に関すること
- ・セカンドオピニオンについて
- ・アピアランスについて
- ・患者会について
- ・その他

事例紹介

ある日、ご家族から、患者本人のセカンドオピニオンについて相談したいと、がん相談支援センターの
がん専門相談員へ電話がありました。口調が少し強め、早口で焦っている様子でした。

本人の病状やご家族の気持ち、考えをお聞きしたところ・・・

肺がん/Stage IV。治療は薬物療法のみを提示された。

ご家族としては、手術が対象とならないことはわかるが、放射線治療の適応は今後もないのだろうか？
治療法は現在提示されたものだけなのだろうか？他者の意見も聞き治療を決めたい、予後が3カ月程度
と聞いているので、早めにセカンドオピニオンを受け、それらの疑問を早急に解消したいとのことでした。

がん専門相談員が、即日外来看護師と共有し、予約となりました。

ご家族へも経過の連絡をしたところ、最初の相談時と打って変わり、非常に安心された口調で「ほっと
しました」と話されました。

その後セカンドオピニオンを受け、すぐに治療開始となったとのことでした。

早急にセカンドオピニオンを受けることで不安や疑問が解消し、治療が開始できた事例でした。